



「ありがとう」と「すみません」は
チョツとちがう

仕事に遅れたり、人との約束の時間に間に合わないことがある。やっと到着して、相手を見つけると「ごめんなさい」とか「すみません」と謝ることが多い。

よっぽど重要な時でもない限りは、「どういたしまして」と言って許してもらっている。

人間社会は何かと約束事が多いが、守れたり守れなかったりする。守れなかった時は、「すみません」と言って反省し、今度からは守れるように努力する。こんなことを何十年とくり返しているのだが、先日面白い体験をした。

友人のKさんがやるはずの仕事が締切りに間に合わず、私が変わりにやることにした。仕事が終わった頃に、やっとKさんが来て少しムツとしながら「すみません」と言った。私は「どういたしまして」と答えながら、2つの疑問を感じていた。

1つ目はKさんへの疑問。「彼は何故ムツとしているのだろうか。私か誰かに、何か怒っているのだろうか。それともからだの具合が悪いのだろうか。」ということである。しばらく観察していたら、どうも約束を守れなかった事に対して、とても悔やんでいるというか、約束を守れなかった自分自身に対して怒っているようであった。

2つ目の疑問は私自身へのものである。「どういたしまして」と言いながら、私の心が軽くなっていないのである。

私は、Kさんが約束を守らなかった事を怒っているのだろうか？……いや怒ってはいない。では、ムツとしていることが気に入らないのだろうか？……いや彼は自分自身を責めているだけで、私にはすまないと思っているのだから問題はない。

私は答えが見つからず、自分の行動をもう少し考えてみた。

そもそも私は何故彼の仕事をやろうとしたのだろうか。

「締切りに間に合わなかったから」

「彼を助けたかったから」

そして「彼に喜んで欲しかったから」

そうか、私は彼に喜んで欲しかったのだ。

しかし彼は、自分を責めて落ち込んでいる。

私に「すみません」と謝っている。

こんなはずではないのに…と私の心は沈んでいる。

私は、本当はどんな展開を期待していたのだろうか。

<私が彼の仕事をしている。すると終わった頃に彼がやってきて、「オッやってくれたのか」と喜ぶ。そして「ありがとな」と言ってくれる。>

そうか、私は「謝る」のではなく「お礼」を言って欲しかったのだ。彼に自分のことではなく、私の思いや行為を知って欲しかったのだ。

そういえば、私が約束を破った時もいつも、「すみません」と謝っているが、本当にそれだけでいいのだろうか。

私が「すみません」と言う時、当然ながら主語は「わたし」である。「私が」あなたにすまないことをした、と言っているだけである。相手が何をしてくれたか、何を思っていてくれたかを全然考慮していない。そして相手に「許して欲しい」と迫っているだけである。

「すみません」に対し「ありがとう」は、主語が「あなた」になる。「あなたが」待っていてくれてありがとう。仕事をしてくれてありがとう。許してくれてありがとう。

これからは、「すみません」よりも「ありがとう」を多くしようと思った。

今まで、いつも反射的に「すみません」と言える自分を「いいヤツ」と思い込んでいたが、自分を中心にしていただけの「ありがたいヤツ」だったのかもしれない。

アリガトウ倍増の天才哲人 上村慎二郎